

27. 外傷性せき髄損傷患者の社会復帰率

算式

$$\begin{array}{ll} \text{【分子】} & \text{分母対象例のうち、自宅復帰者 + 職場復帰者 +} \\ & \text{復学者 + 社会復帰が見込める者※} \\ \text{【分母】} & \text{退院患者数（外傷性せき髄損傷患者に限る。）} \end{array}$$

定義

外傷性せき髄損傷患者の社会復帰率

指標の解説

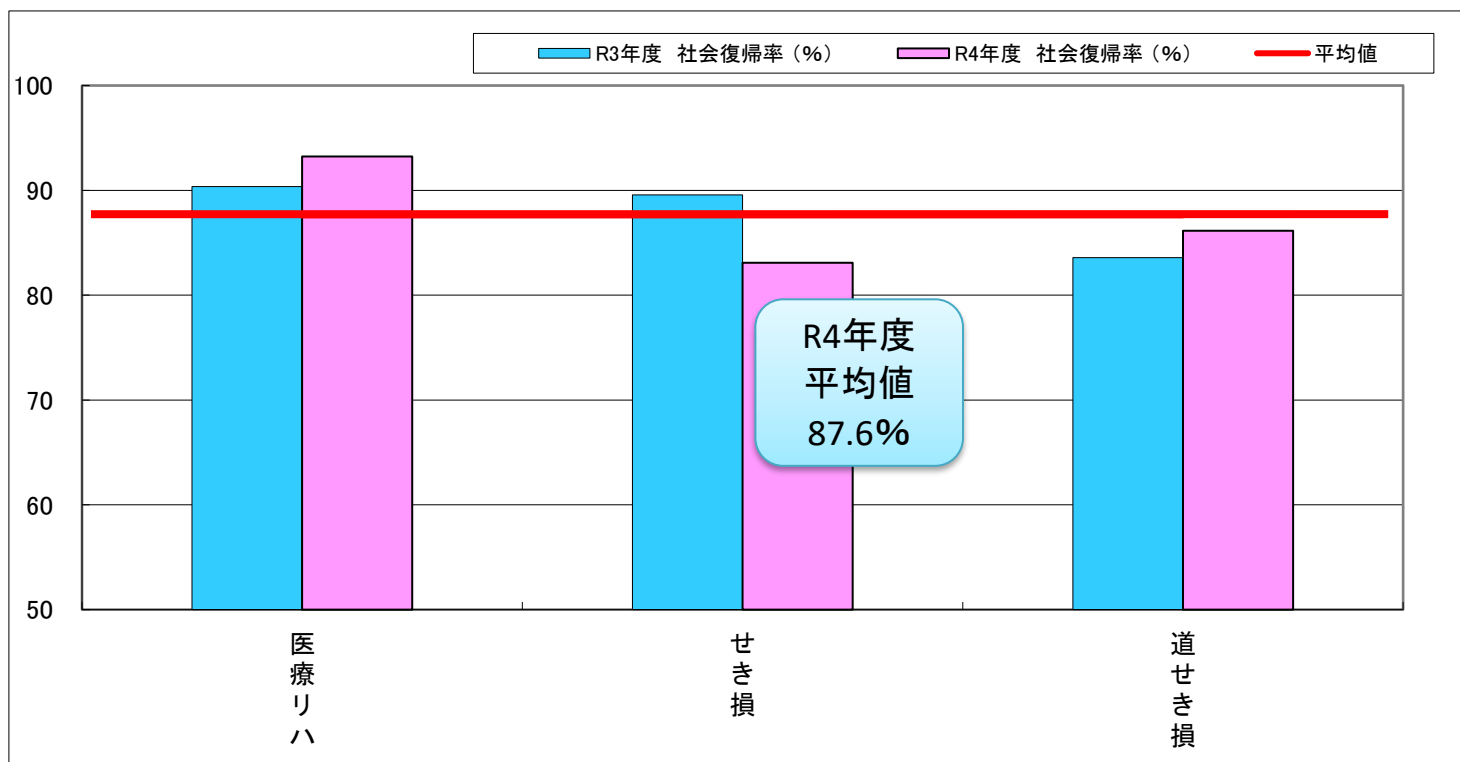
施設調査より抽出

せき髄を損傷した場合、重篤な四肢麻痺を来たして長期の入院生活を強いられ、社会復帰もままならない状態となるため、急性期から回復期のリハビリテーションを含む医療に加えて、社会復帰後の障害の管理まで高い専門性が必要となる。

このような高い専門性が必要となる分野への取組状況について、急性期のせき損患者を受け入れている病院における社会復帰の割合により評価する。

※ 社会復帰が見込める者
「退院後一時的転院後に自宅、職場、学校へ復帰した者」、「医学的には治癒だが、家族等の看護（介護）者の不在、自宅がないなどの社会的要因により自宅復帰ができず、退院後社会福祉施設等に入所した者」を指す。

27. 外傷性せき髄損傷患者の社会復帰率



No	施設名	R3年度			R4年度		
		分母	分子	社会復帰率 (%)	分母	分子	社会復帰率 (%)
1	医療リハ	83	75	90.4	74	69	93.2
2	せき損	67	60	89.6	71	59	83.1
3	道せき損	67	56	83.6	65	56	86.2
合計		217	191	88.0	210	184	87.6